超ざっくり世界史 改訂版

D1198

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

足柄ＳＳの作成にあたりＷＷ２に至る流れをサクッとまとめました。

その名も「超ざっくり世界史」です。

序でだから曝します。

皆も自分の歴史書を創ってみると良いよ！

コンセプトは、細かい所はどうでもいいから大雑把に捉える、です。

定説となっている歴史事項が繋がる様に並べていますが、分りやすい様に厳密にはしていません。

従って、横文字人名と年号は基本的に省いています。

ソースは基本的に本ですが、整合性を加味したうえでネット情報も使っています。
ネット在住の歴史ニキ達へ。
ツッコミは手柔らかに頼みます。
マジたのんます。
※おや？　と思ったらググるべし。

目次

古代
大昔編 ―― 1
中世
だいぶ昔編そのイチ ―― 6
だいぶ昔編その2 ―― 13
だいぶ昔編その3 ―― 18
近世
結構むかし編そのイチ ―― 28
結構むかし編その2 ―― 33
結構むかし編その3 ―― 40
近代
それなりに昔編そのイチ　思想編 ―― 48
それなりに昔編その2　ＷＷＩ編 ―― 58
それなりに昔編その3　植民地編 ―― 77
それなりに昔編その4　ナチスドイツ編 ―― 94
オマケ ―― 103

古代
大昔編

〔創世記〕

この頃は、文字が無いので遺跡から当時を、想像するしか無い時代なんだそうです。

・大昔に、人類の先祖が生まれる。

・地球のあちらこちらへ散らばった人類が、共同体を創る。

・統廃合を繰り返しながら、ジワジワ大きくなる。

・初期段階の文明が生まれる。

農耕牧畜・私有財産の概念・最古の宗教〈ゾロアスター教〉で、四大文明が誕生します。

特徴は以下の通り。

・農業が発明され、大量の人口を支えられる様になる。

・余剰の穀物によって農業以外の職業を支えられる様になる。この結果、分業という経済概念が生まれる。

支配者・被支配者という関係が生まれたのも、この頃なんだとか。

〔歴史を見るポイント〕

歴史を見ていると、国は拡大・拡張を大原則としているのが分ります。

領土の広さ・軍事力の強さ・人口の多さ・思想の強さ、これらは全てパワーと言えます。

パワーの流れに注目すると、歴史の本質が見えてくるかもしれません。

〔古代ローマ時代〕

ロムルス『ローマ！』

世界史＝欧米史なら、古代の中心は古代ローマだよね〈問題発言

古代ローマは〈以降、ローマと表記〉昔のイタリア半島で生まれた都市国家〈＝ポリス・国の最小単位〉の一つだったそうです。

それがドンドン大きくなって、先輩である古代ギリシャ文明を取り込んで、南はアフリカ大陸の北側から、北はイギリスまで領土を持つ大帝国になります。

キリスト教爆誕

敢えて説明するのも憚〈はばか〉れる世界宗教です。

多神教のローマは、当初キリスト教を容認していましたが、その規模が大きくなると、

禁止にします。

なんでか。

政治には権威が必要です。権威ってのは、有無を言わせない強制力です。くだけた表現をすると『納得いかないけどあの人が言うなら仕方がない。しぶしぶ』こんな感じ。

立場によって利害が変わる人間が集まるならば、こう言うモノが必要なんでしょう。

ローマは、皇帝を頂点とする政治形態だったので、神が最も偉いとするキリスト教は困る訳です。

栄枯盛衰と言いますが、大繁栄したローマも傾く事になります。

その一因が、民族の大移動。

フン族に追われた大量のゲルマン民族が、難民としてローマ領土内に押し寄せます。

寝るところも必要なら食い物も要る、全員に衣食住を分けられる訳でも無い、でも食い物が無ければ……当然治安は悪化します。

暴徒と化した難民の鎮圧をローマは試みますが失敗し、ゲルマン民族にローマ領土内での定住権と自治権を認める事になります。

キリスト教がローマの国教となったのはこの頃です。強力な改宗力を誇るキリスト教によって、異民族のごったに状態だったローマ全域をまとめる必要があったって話です。

んで。

ローマは治安維持や辺境防衛のためだと思うのですが、やめとけばいいのに、ゲルマン民族で構成された軍を創ります。

ローマ衰退の原因は、幾つかあるそうなのですが、これが主要因のようです。

何故か。

時は群雄割拠の時代です。あっちこっちで「俺は王になる！」と言う野心が転がっています。つまり、軍の影響力はとても強い。

案の定、軍を任されたゲルマン人たちは、ローマにおける影響力を強くします。

当時、既に衰退が始まっていたローマは東西に分割されていて、その片割れの西ローマ帝国はゲルマン人の傭兵隊長に乗っ取られます。

東ローマの皇帝は、あちらこちらで生まれていたゲルマン系王国の一つに、もちろん討伐を命じます。

そして成功します。

したのですが、これはゲルマン人達を抑えるどころかますます勢いづかせた様です。

ドイツ・フランス・イギリスの基になったフランク王国は、主にゲルマン人達がこの時代に興した国だそうですよ。

次回は中世辺り。

中世
だいぶ昔編そのイチ

～前回をザクっとまとめ～

大昔にローマ帝国が興る。

ローマと一口で言っても年代に幅があるのですが、ロムルスが建てた（と言われる）時代は、紀元前六世紀頃です。ちな、この頃の日本は縄文時代です。縄文時代も幅があるんですけれど。

パクスロマーナと言われるローマ最大の繁栄時代の日本は、弥生時代の末期です。

ゲルマンの大移動の頃は、日本に邪馬台国が在った頃。

西ローマ乗っ取り事件の頃の日本では、蘇我氏と物部氏が、伝来した仏教の扱いでモメておりました。

超ざっくり世界史～だいぶ昔編そのイチ～

西ローマ跡地に、東ゴート王国と言うゲルマン系の国が出来ます。

その国の王様は、東ローマ皇帝の命を受けて、西ローマを、先のゲルマン傭兵隊長から、取り返した人です。同族でも容赦ないのがゲルマンクオリティ。ですが、調子に乗った東ゴートの王様は、東ローマにちょっかい掛けて滅ぼされます。南無。

ここで、東ローマ帝国は舞台脇に移動です。ここからはヨーロッパが主役です。

舞台は今のフランス辺り。時代は後述。主な登場人物は、【ゲルマン人が興した大国フランク王国】と【西ローマ帝国が無くなっても続くローマ教会】です。

余談ですが、ローマ帝国とローマ教会は、両方ともローマって付いていて、ややこしいです。ローマという名前は勿論ローマ帝国が先。教会は、ローマの伝統・権威を引き継いでいると言う意味なのだと勝手に考えております。ローマカトリックとも言いますし。

◆

ここから本題です。時代は、ゲルマン人大移動と言う大イベントから落ち着いた頃です。この頃の特長は、ドロドロの権力争いと言っても過言では無いでしょう。順だって見ていきます。

・ゲルマン民族のとあるグループがフランク王国を建てる。

国の大原則に従い、他の国を乗っ取りながら順調に大きくなっていった、のですが。

・フランク侵攻（トゥール・ポワティエ間の戦い）

この頃に、今の中東辺りで栄えていたイスラム帝国が、ヨーロッパに侵攻してきます。手元の本にはフランク侵攻とありますが、トゥール・ポワティエ間の戦いの方が一般的かもしれません。んで、これをフランク王国の偉いヒトが追い返します。もちろん王様の人気は急上昇。

王様「王様が偉いのだ」

法王「ローマ教会を守っていた西ローマ帝国が無くなったから、多少は大目に見るかのう」

王様「民よ！　我を崇めよ！」

・カール大帝の戴冠式

法王「イスラム侵攻を阻止していい気になり始めたか……そうじゃ！　ねーねー王様。お茶を飲みに来ない？」

王様「おーけー。あれ？　この式典っぽいのなに？　ナニするの？」

法王「戴冠式じゃ」

王様「誰の？」

法王「ほれ。お主をただの王から西ローマ皇帝に格上げしてやろう（上から目線）。な

んと言ってもローマ教会はローマ帝国から続いておるからのぅ」

王様「騙されたーーー！」

こんな感じで、王様と教会は、ある時はイガミ合いある時は手を結ぶと言う微妙な関係が続きます。

・カノッサの恥辱

法王「司教・修道院長の任命権が王にあるのはおかしい。寄こせ」

王様「誰が渡すか（既得権益」

法王「なら破門じゃ！」

王様「な、ちょ、おま、反王派も居るのよ!?　宗教的権威が無くなると超困る！」

法王「破門を解いて欲しければ跪けぃ（上から目線」

王様「ぐぬぬ！」

一度ぐらいは聞いた事はあろう有名な出来事です。余談ですが昔、似たような名前のＴＶ番組があったとか。

・王様の逆襲（名称不明

王様「ぐぬぬ」
法王「ほれほれ」
王様「ぐぬぬ」
法王「　ほれほれ」
王様「屋上へ行こうぜ……久しぶりに……キレちまったよ」
法王「ジョークジョーク♪　怒っちゃイヤ♪」
と言ったか定かではありませんがフランクの王様は、軍隊を使って法王を退位に追い込みます。ところが。
民衆「「法王さま万歳！」」
王様「なぜだーー！」

違和感を感じた方はいらっしゃいますでしょうか。
私は前々から不思議でした。
物理的強制力（＝軍隊）を持つ王様が、そうではない法王に何故従うのか。
考えてみれば領民は勿論のこと、貴族までキリスト教徒です。
王様といえども宗教的権威には敵わなかったと言う事なんでしょうね。

もう一回中世いきます。

【オマケ】

フランク侵攻があったので、ここで中東の歴史をざっくりいきます。

シュメール

←

アッカド

←

ヒッタイト

←

ペルシア

これらは全て同じ地域です（超ざっくり

宗教はと言うと、土着の民間宗教が沢山在ったそうですが、どうやらシュメール（神話）がメジャーだった模様。

その後にゾロアスター教が国教となりました（ペルシア帝国のアケメネス朝からペルシア帝国のササーン朝まで）

んで、マホメットさんがイスラム教を興します。ササーンの後のペルシア帝国ウマイ

ヤ朝から、イスラム教が国教となったそうです。
フランク侵攻のイスラム帝国とはこのウマイヤ朝の事です。

【オマケ2】
～朝ってのはグループ分けされた血縁の名前だと思って下さい。家系図を広げて、とある人から沢山の曾孫までを～朝と呼ぶみたいな。

だいぶ昔編その２

中世＝暗黒時代

〝中世は暗黒時代だ〟　前々から言われてるこの話ですが、歴史系スレなんぞを見ていると、暗黒では無いと言うコメも、チラホラ見かけます。

どういう事か調べたら、歴史と言うよりは政治・思想・宗教に関わる、非常にメンドクサイ話でした。

アマチュアとはいえラノベ作家の端くれ、可能な限り簡単に書いてみようと思います。

非常にザックリ言うと、今のヨーロッパの基礎が創られた時代だから、暗黒では無いって事らしいです。

基礎ってのは、起源が謎の常識・風習、その類いの事です。

日本で置き換えれば次の様な感じ。

ボク「ねー。なんでお茶碗を箸で叩いちゃいけないの？」

ママ「お作法だからよ」

ボク「なんでお作法になったの？」

ママ「昔からそう言われてるのよ」
ボク「なんでそう言われる様になったの？」
ママ「……」
現代日本人が意識する事は無くても、日常の奥深いところにある様々な行動様式、そう言ったモノです。
欧州で相当するモノといえば、週に一回教会でお祈りとか・食事前のお祈りとか・火葬は御法度とか、この類いでしょうか。

◆

ある本によると、今のヨーロッパはローマからの続きでは無くて、この暗黒時代に作り替えられたモノと捉える事が出来るのだそうです。
どういう事か。
ゲルマン大移動でそのゲルマン人が欧州圏にやってきた訳ですが、ローマが崩壊して欧州圏が文明的な意味で更地になってしまった。そこで彼らは、その跡地に新たな文明を作り始めた。
そのプロセスがですね、意外と面白いんです。
ゲルマン人は文字さえ持たなかった蛮族だったそうです。
その彼らが如何にして成し遂げたかというと、ローマ教会の影響です。

西ローマ帝国が崩壊しても残っていたローマ教会は、彼らをせっせと改宗させます。信者となったゲルマン人達は、当然のことながら宗教的な規範に従う事になります。先述の食事前のお祈りなど日常的な事から始まり、赤ん坊の洗礼・結婚式・葬式などの宗教的儀式、更には〝汝隣人を愛せよ〟などの行動規範、多岐に渡ります。

この結果、ゲルマン人達は同族でも容赦の無い荒っぽい性格だったにも関わらず、広大な地域（今で言う英・独・仏・伊など）に関わらず、バラバラになる事無く、キリスト教の下で統一的な文明を築いていった。

確かに暗黒時代は良い事ばかりじゃありませんでした。

人口が一億減ったペストの大流行・教会の猛威による息苦しい生活・英ｖｓ仏の長い戦争・等々、直前のローマ時代や直後のルネッサンスと比べれば、暗いイメージに事欠きません。

とは言うものの、こう言う側面を知ってしまうと暗黒ってのも表現として微妙でしょう。

そうだ。暗黒時代に代わる新しい名前にしましょう。

『スキルの溜め時代（ゲーム脳』

歴史にもしもは無いが定番ですが、もしローマと共にキリスト教が欧州圏から無くなってたら、どうなってたでしょうか。

この歴史ＩＦでは、ゲルマン人達が新たな文明を築くのに、更なる時間が必要になる。
つまり、フランク王国の成立が遅れる。
そうなった場合、イスラム侵攻を阻止できたか（そのイチ参照）非常に怪しくなります。
その仮想史ではヨーロッパは、否、世界はイスラム教圏となっていたかも？
おぉ、壮大。

【オマケ】
無神論者が信用ならないと言う欧米人が時々居ますが、こう見ると分る気がしますね。

◆◆

中世編は二回で終わり、の予定でしたがもう一回続きます。
今回の暗黒時代ネタで、時間を使いすぎました。
『学んだ事を理解しているかを試すには、人に説明してみると良い。説明できなければ理解していないと言う事だ』

昔のヒトがこんな事を言ったそうですが……昔の人は偉かった。

だいぶ昔編その3

延々と続くよ権力争い

中世も今回で終わりですが、その前に補足します。

フランク侵攻を阻止したフランク王国の人は、カール＝マルテルさんと言います。

後年の、戴冠式で登場したカール大帝とは、別人です。

ただ祖父・孫の関係にあります。

ややこしい。

そのカール大帝はカリスマ値が高かった様で、事実大帝の死後、フランク王国は東・中央・西の三つに分裂してしまいました。

ここで気をつけないといけないのが、分裂の原因はローマの衰退とは異なり、兄弟間の権力争いです。

パパ「遺産は兄弟三人で分けるぞ」

このパパさんはカール大帝の孫です。

三人の息子「「「うぃー」」」

ところが四人目が生まれます。この四人目がとっても可愛かったらしいです。

男なのに。
パパ「四人目にも相続させたいから相続は白紙ね」
三人の息子「「「ざっけんな！」」」
四人目が男の娘だったばっかりに、血で血を洗う肉親同士の権力争いが起り、大国が三つに分割してしまいましたとさ（多少誇張
ただこの結果、西フランクがフランス・東フランクがドイツ・中央フランクがイタリアと、今の国々に繋がります。
子供が産まれて権力争い……なんか日本史でも似たような事が在った気がする。足利義政だっけか。
◆
とにかく。
王権と法王権とがドロドロやりつつも、国の基礎を創るという世界史的に見れば、じっくりコトコトのマッタリした時間が流れます。
が。
時は十世紀、ここで歴史的大イベントの発生です。
なんと二回目の民族移動が起ります。
皆様は知っていたでしょうか。

私は知りませんでした。
一回目はローマ時代のゲルマン人。
今回の二回目はノルマン人です。
彼らは北からやってきたバイキングです。
その脳筋力で西フランクの一部をぶんどって、新しい国を興します。
バイキング「汚物は消毒だ――！　ひゃっはー！」
民「「お助けー」」
ケンシロウは居ませんでした。
現代でもノルマンディと呼ばれる地域がありますが、そこです。今のイギリスとフランスの間にある海をドーバー海峡って言うんですが、そのフランス側の沿岸辺りです。
で、脳筋ゆえのタフな公国の偉いヒトは、今のブリテン島に侵攻して新しい国を興します。「公国の偉いヒト」って言い回しをしたのは、後述。
余談ですが、この偉いヒトの立像が今でも在るそうです。後世の創作がどれだけ入ってるかは知りませんが、あからさまに海賊王（バイキング）。「海賊王になる！」って言ったゴム人間はこんな感じになるのかね。
ともかく。
これを切っ掛けに、幾つかの政略結婚が起り、あたらしい血縁関係が出来ます。

その結果がどうなったか。
西フランクの地方領主に過ぎない公国の偉いヒトが、西フランクとイギリスに、スゴイ領地を持つ事になりました。
余りに広いので、西フランクの王様は気に入りません。
西フランクの王様「領地持ちすぎだ。寄こせ」
西フランクの地方領主（＝公国の偉いヒト）「嫌だプー」
言い回しをしたのは、【西フランクの地方領主＝公国の偉いヒト】この関係だからです。なんで王様に従わないのか、絶対ややこしいので補足します
この時の政治形態は封建体制でした。
政治形態ってのは、幾つかある国の構造の事です。
構造ってのは、国の運営を誰がするかって事です。
王様が一人でするのか・選ばれた小数がするのか・民衆がやるのか、こう言う類いのモノです。
んで封建がどういうモノかというと、ザックリ行くと、領土を持つ貴族たちのの寄り合い所帯です。
その貴族達のうちの一人が”王”なんですが、王様の権力は、義務教育下で存在する班の班長程度だったっぽい。

要するに王（リーダー）に従わない領主も居る。
公国の偉いヒトは、そう言う「従わない奴」だった訳です。
脳筋も一因でしょう。
その結果。
公国の偉いヒトは、英国王と名乗りイギリスが始まります。
西フランクもこの辺りから、フランスって名前になりましたとさ。

◆

中世も大詰めだ！
この頃ローマカトリック教会は、腐敗・汚職染まっていたので、それに反発する団体、今で言う原理主義者の派閥が登場します。
勿論彼らは教会を糾弾します。
更には、聖地を取り返す為の宗教的軍事作戦「十字軍遠征」で大失敗して、教会の権威は更に下落。
村人Ａ「神様の十字軍遠征が失敗？　神様は正しいから教会が偽物なんだべ」
村人Ｂ「んだんだ」

教会「やばい。このままじゃ誰も従わなくなる……そうじゃ！」
んで、魔女裁判が横行します。
魔女っていえば異教徒っぽく聞こえますが、実際の所ただの反対派への物理的弾圧ってことです。
世界史やってるとあるある過ぎて苦笑い。
蓋を開ければ教会の権威は失墜し、封建領主達が幅を利かせ始めます。
そんなおり、フランスで王朝断絶という大問題が起ります。
もうおわかりですね？
Ａさん「我が正当な後継者だ！」
Ｂさん「いや俺だ！」
教会（目の上のたんこぶ）が弱まってオラ付いていた貴族達は権力争いを始め、それが英ｖｓ仏の戦争に発展します。
いわゆる１００年戦争勃発。
英国勝利になると思いきや。
Ｊ・Ｄ・「私！　天使様に会ったの！」
ちょっとイタイ女の子が、救世主として華麗に登場。
戦況をひっくり返しフランスを勝利に導きます。

なのですが。

教会「神を扱っていいのは我らだけじゃ！」

その女の子は、既得権益の侵害を恐れた教会に異端とされ、火あぶりされてしまいます。

神も仏もありゃしねぇ。

戦争の原因が貴族達の権力争いだって知ってたら、死ぬに死にきれんだろ―。

◆

中世の締めくくりはローマです。

東西に別れた後、西ローマは無くなってしまったのですが、東ローマは欧州と中東の境目で存続しておりました（大昔編参照）。

旧西ローマの領土を部分的に取り返し、最盛期には及ばないものの、東西に分裂する前の領土を誇った様です。

ですが栄枯盛衰。

当時オラ付いていた中東の大国オスマン帝国に壊滅させられます。

しまうのですが、（東）ローマは十五世紀まで存続したそうです。

これを知った時は驚きました。

東ローマ帝国＝ビザンツ帝国も驚いた。

中世編おしまい！
次は近世だ！

◆◆◆

【オマケ1】中世に起った他の事件をザックリ行きます。
～中世の真ん中ら辺り～
十字軍遠征の際に作られた立派な道が、貿易を活発にします。
舗装道路でないと、運び難いからだとか。
中世の胡椒が金より高い云々ってのは、この時の話です。
んで。
活発になった貿易と共に、病原菌を持ったネズミもやってきて、ペストが大流行します。
開発で病が始まった云々……、現代でも良く聞く話ですが昔から在ったんですね。
学習しない人間って悲しい。
～中世の後半～

イギリスでは、英国王の（公国の偉いヒトのもっと後のヒト）アレさ加減に辟易した貴族達が、一致団結して議会制政治を始めます。

これが民主政治に繋がります。

いわゆる大憲章（マグナカルタ）って出来事です。

なんかラノベ技っぽいですね。

△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

・スキル名：大憲章（マグナカルタ）

・効果：全員死ぬ。

△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼

ダメかな。ダメかね。

【オマケ2】

～ブリテンの歴史ざっくり～

最初にケルト系の国がありました。この頃からローマの支配下にありましたが、ゲルマン大移動でローマは撤退します。

んで、アングロサクソンが侵攻して国を興します。七王国って言うそうです。なんかとってもファンタジーです。そうそう。アングロサクソン（＝ゲルマン）だとか。

んで、先述のノルマンディ公国の偉いヒトが侵攻して国を興します。こっからイギリスが始まります。

アーサー王はケルト系国の頃の人物らしいです。

と言う事は、彼女（？）はローマ系ケルト人と言う事になります。

また彼女が闘った蛮族ってのは、アングロサクソン人（＝ゲルマン人）って事になります。

そうだ。

ジュリアス＝シーザーが、ブリテン島に行った事実は在るそうなので、アーサー王とジュリアス＝シーザーを絡めるＳＳができますね。

アーサー王は、史実的にハッキリしないのでイケルイケル。

シーザーはかなりの女好きだったそうなので…誰か書いて下さい（Ｒ１８希望

近世
結構むかし編そのイチ

前回のだいぶ昔編をざっくりまとめ＆日本史と比較
カール大帝の戴冠式の頃、日本では平安京に遷都と言う出来事が起こります。
フランク王国が分裂すると、日本では遣唐使が廃止されます。
二回目の民族移動が発生した時、日本では将門の乱が起っていました。
Ｊ．Ｄ．（ジャンヌ）さんが火あぶりになるのは、室町幕府が成立した頃です。
東ローマ帝国ことビザンツ帝国が滅亡したら、日本では応仁の乱。

超ざっくり世界史～結構むかし編～

ルネッサンスです。
色々ブレイクした時代です。
色々とは、【欧州人の活動を世界に広げた大航海】・【モナリザなどの後世に語り継がれ

る美術品】、こう言った物が一気に生まれた時代です。
現代にまで影響を与えた時代と言っても良いでしょう（思わせぶりな説明の理由は後述。
まずその原因から。
何で起ったかというと、中世で強い影響力を持っていたキリスト教への反発です。
これで済ますとザックリ過ぎるので、つらつらとまとめていきます。
牧師「子らよ。神の名の下に、慎ましく生きるのじゃ」
村人「具体的にプリーズ」
牧師「この世は神が創りたもうたのじゃ。農民であることも鍛冶屋であることも、神がお決めになったのじゃ。分るな？」
村人「あのー、牧師様。私は狩人になりたいのですが」
牧師「ダメ。羊飼いに生まれたからには死ぬまで羊飼いじゃ。神がお決めになった事じゃからの」
村人「えー」
生まれた時から身分が決められている、現代人から見るととんでもない話ですが、中世ってのは大体こう言う世の中だったそうです。
そりゃー、息も詰まります。

ただ、羊飼いという身分は保障される、と言い方を変える事も出来ます。
無職・ニートに縁が無い社会ならば、一長一短か。
現代インド地方でも時々聞くカースト制度は、日本では悪く報道されますが、実際はどうなんでしょうね（問題定義

次に、何故キリスト教が弱まったのかです。
それは、イスラム科学によるキリスト神格の破壊です。
表現がちょっとラノベ臭すぎますので、書き換えます。
「幽霊の正体見たり枯れ尾花」と昔から言いますが、人間は理解できない物を恐れ敬う傾向があります。
自然信仰の様に、雷や火山を神格化してきたのも、その一面です。
言い方を変えると、正体を知ってしまえば怖くない。
牧師「太陽が地球の周りを回っているのは、神の御業じゃ！」
農民「地球が太陽の周りを回ってるんだろ？　神って本当に居るのかよ？」
牧師「神を疑うべからずじゃ！　地獄に落ちるぞ！」
農民「居ないなら地獄もないんだろ？」
牧師「ぐぬぬ！」

勿論全員では無くて、完全否定までには至らなかったそうです。
どうしてかというと、イスラム科学を受け継いだ当時の哲学者の中にすら、キリスト教徒が居たからです。
ともかく。
この結果、欧州圏で天文学を含めた科学が発展します。
んで、
中世での十字軍遠征を切っ掛けに始まった貿易が、欧州に羅針盤をもたらし、それとイスラム科学が合体して大航海に繋がります。

次回も近世編です。三回ぐらいの予定。

◆◆◆

【オマケ1】

イスラム知識の流入は、ルネッサンスの前から始まっていたんだとか。
十字軍遠征の失敗による教会の権威落ちも、ルネッサンスの後押しになったそうです。

【オマケ2】

イスラム知識のもともとは、ギリシャローマ哲学だったそうです。

キリスト教がローマの国教に成った時に、欧州圏から追い出された知識人が、イスラム圏へ渡ったんだとか。

アホやねー。

結構むかし編その２

泣く子も黙る大航海時代の始まりです。先陣を切ったのがポルトガルとスペインです。

なんでスタートが早かったのかというと、オスマン帝国に占領された事があり、イスラム知識に長じていたからだとか。

イスラム様々やね。

スペインは、当時未知の海だった大西洋を越えて、アメリカ大陸を発見します。

ポルトガルは、アフリカ大陸を反時計回りにぐるっと越えて、インド・東南アジアへ向かいます。

コロンブス「女王様！　人類が未知の領域に挑む時代がやってきました！　私はその先駆けに成りたい！　是非お力添えを！」

スペイン女王「うむ。勇気と知恵で危険を打ち破り、見事その大義を果たして見せよ」

歴史に詳しくないヒトでも知っている有名人なので、名前を出しました。

【結構むかし編そのイチ】での思わせぶりは、ここからです。

実はこの時代で、現代経済の基礎が確立されています。

その名も資本主義。

Ｗｉｋｉで調べると、ルネッサンス時代にも在ったと書いてあるので、間違いありません。

ルネッサンスとは、我々人類がこの悪魔に取り憑かれた時代でもあった……遺憾ながら、そんな雅の無い話。

◆◆

説明の為に、騎士（＝貴族）さんに登場して貰います。

プレイトメイル・バスタードソード、充実した高価な装備に加え、日々の訓練で超強い。

農民（クワ装備）「ぎゃー」

騎士「戦闘力たったの3か。ゴミめ」

農民（鉄砲装備）「バッキューン！」

騎士「ぎゃー」

こうして騎士（＝貴族）の時代は終わりましたとさ。

十字軍遠征によって発達した交易路は、欧州に鉄砲をももたらしたんですが、これが新たな政治形態である絶対制度を生み出します。

中世において、王様は班長にすぎない封建制度でした。

ところが鉄砲の登場で騎士（＝貴族）が没落します。
そうすると、王様が一人残ります。
王様「あれ？　我がトップ？」
ライバルが居なくなれば一番になるのは道理です。
（追記・なぜ王様がトップなのか？　なんですが。伝統を重んじる貴族世界ならば、最も古い歴史を持つ者がトップになると考えるのが自然だと考えます）
◆
次に先の絶対制度が、資本主義にどう繋がるのか、なんですが。
中世は、図形的な意味で国は決まっていなかったそうです。
どういう事かというと。
貴族Ａ「お前気に入らないから別の王と契約するよ。バイバーイ」
王様「なんだとー!!!」
貴族Ｂ・貴族Ｃ「俺も俺も」
王様「ちょ、おまｗ」
今風に言うなら、県知事が日本から離脱して中国に汲みする、でしょうか。
こう言う政治形態が終わって、王様が全部まとめて国を動かす様に成った。
絶対制度・絶対王制と言いますが、これは中央集権と同義です。

つまり、
領土（＝税収・権力）が安定し、王様が全額を意のままにできる。
カネ・カネ書くとアレですが、道路や橋などのインフラ整備は、個人で出来ませんから、国政レベルでみれば革新でしょう。
つまり、
お金が掛かる大航海は、王（＝国）と言う巨大資本による大事業だった訳です。
嘘じゃ無いです。
コロンブスも、スペイン女王に融資を頼みに言ってますし。
コロンブス「女王様。カネを貸して下さい」
スペイン女王「直球じゃのう。ナニに使うのじゃ」
コロンブス「大航海です。東方見聞録に記載のジパングで金塊を探してきます。見つかったらウハウハできます」
スペイン女王「よかろう。キッチリ稼いでくるのじゃぞ」
コロンブス「ところで女王様。分け前の話を……」
スペイン女王「たわけ。成功報酬と言わぬか。その言い方ではどう見ても越後谷じゃ」
コロンブスが発見したアメリカ大陸で、スペインが何をしたかというと、原住民に対

してアレをしました。
かなりアレだったそうです。
無敵艦隊と呼ばれる大艦隊を作れる程のアレです。
コロンブスは奴隷商人でもあったって言うし、歴史的偉人なんてこんなもんか。
因みに、日本が中央集権になったのは廃藩置県からだそうです。
◆大航海時代をもうちょっと
大航海時代の原動力となったのは、中世ネタで有名な金より高い胡椒です。
胡椒はインド・東南アジアで産出されていたのですが、地形の都合で中東商人のマージン（＝取り分）が避けられないので割高だった。
そこでコロンブスとバスコダガマは、そこを目指したんです。
今で言う「直接仕入れで格安！」って奴です。
つまりはカネです。
カネ・カネ・カネ……大航海時代（ロマン）は死んだ！
女王様「我の欲望の泉は底が無いのじゃ。オホホ」
バスコダガマは素直に、イスラム帝国の向こうにあるインド、つまり東へ向かいました。
が、コロンブスは西に行きました。

この理由は、バスコダガマに先を越されたからって話です。
彼は地球が丸い派だったので、西に向かえば、早くインドに辿り着くと思ったらしいです。
ですが、
地球の直径を計算間違いしてアメリカ大陸をインドだと勘違いした。
アメリカ大陸原住民が、インディアンと呼ばれたのは、これが原因です。
注目するのはスペインよりポルトガルです。
東に向かったポルトガルの貿易船は、インド・東南アジアを越えて偶然にも、種子島に到達します。
別名遭難とも言いますが、ヨーロッパと日本が直で接触した日でした。
一五四三年：鉄砲伝来

◆◆

【オマケ1】
胡椒の産地は現代でも変わっていないっぽいです。つまり、シーレーン（航路）の確保は重要ですよ。スパイスが日本に入ってこなくなったら、カレーが食べられなくなりますから。

【オマケ２】

キューバ・コロンビア・メキシコ。これら中米の国の公用語が、スペイン語なのは、大体コロンブスのせい。

【オマケ３】

近世に入って、まとめる情報量がハンパ無い。

結構むかし編その3

この時代での重要イベントが、宗教改革です。
大航海と比較してイメージがし難いせいか、教科書でも地味な扱いです。
なのですが、
アメリカ建国に繋がっているならば、地味ではありません。
順だって追っていきます。
十字軍遠征の時に出来た貿易路で、成り上がった商人がいました。
いわゆる豪商です。
イタリアのM家とします。
そのM家は、ローマ教皇庁の資産を管理していた事もあって、M家出身の法王が居たりします。
なぜ商人が法王に成れるのか、一見不思議なんですが、【権力＝カネ＝宗教＝権威】となれば、あっ……（察し）
そのM家は美術品を重要視していた様で、その潤沢な資金を使い、美術家を支援していました。

Ｍ家出身のＬ法王が、サンピエトロ大聖堂を豪華に改装しようとしたのは、美術品の価値を知っていたからでしょう。

ノートルダム大聖堂など、ヨーロッパには巨大な大聖堂がありますが、写真だけでも分る程に、巨大で綺麗で圧倒されます。

彼が豪勢にしようとしたのも仕方ありません。

その資金捻出の為に、彼が拵えたのがあの「免罪符」です。

Ｌ法王「この札を買えば罪が許されるぞい」

村人Ａ「え？　そんなことで？　嘘だろ？」

村人Ｂ「でも、ローマ法王さまやぞ？」

村人Ｃ「俺買ってきた。売り切れたら地獄に落ちちゃうし」

信者達「「俺も一枚くれーーーー!!!」」

不安を煽って物品販売、あるある。

◆

これに異を唱えたヒトが居ました。

ドイツの修道士、ルターさんです。

有名なのでこの人の名前も出しました。

ルター「免罪符なんて聖書に無いだろ！　法王！　アンタは間違ってる！」

法王「ぐぬぬ！」
ルネッサンスでローマカトリックが弱体していたとは言え、下手すれば魔女裁判で火あぶりなのに、スゴイ根性です。
更に、
このルターさんは、ただの脳筋ではありませんでした。
坊さんしか読めないラテン語の聖書をドイツ語に翻訳し、更にルネッサンスによって発明された活版印刷を用いて、皆が読める様にしたんです。
どういう事かというと、
教会が独占していた聖書の内容（＝秘密）がバレてしまった。
人々は【聖書〉教会】と考える様に成ります。
L法王「この札を買えば罪が許されるぞい」
村人A「んな事書いてないぞ！　この嘘つき野郎！」
村人B「俺達は聖書に従う！」
村人C「俺れが正しい教徒だ！」
で、新しい宗派が生まれます。
ルター派の誕生です。
これが欧州のあちこちに飛び火して、更に新しい新派が生まれます。

ルター派・カルヴァン派・英国国教会・清教徒（ピューリタン）
これらの反ローマカトリック派を、総称してプロテスタントと言います。
英国国教会＝プロテスタントと勘違いしていたのは、だいたい漫画ヘルシングのせい。
勿論、
古代ローマから権力と密接に結びついているローマカトリックが、黙って見ている筈がありません。
王と協力してプロテスタントを弾圧します。
プロテスタントは反発。
これが戦争にまで発展します。
フランスはユグノー戦争
ドイツは三〇年戦争
イギリスは清教徒革命
ヨーロッパのヒトは、血気盛んですね。
◆
ここからがアメリカに繋がる話です。
かなりメンドクサイので、細切れに書いていきます。

舞台はイギリスです。
まずは商人から。
封建制↓絶対王制の下りで、商人が活躍して、政治的にもエラくなります（以下豪商なんでかと言うと、豪商（＝大企業＝大事業）が重要国策に位置づけられたからです。
現代に例えるとアップルとかグーグルとかでしょうか。
超ざっくりですが、アメリカ企業が大発展すると、アメリカも潤う訳ですから。
ここでイギリスの政治構造をもってきます。
「だいぶ昔編その三のオマケ」に登場した大憲章（マグナカルタ）で、王ｖｓ議会という構図が、イギリスで出来上がっていました。
偉くなった豪商は、必然的に政治に介入します。
つまり議員＝豪商です。
んで、
王ｖｓ議会（＝豪商）の構図になります
ここから宗教改革の話になります。
プロテスタントの一派である仏カルヴァン派は、商売ＯＫという側面を持っていました。
これが豪商に支持され、イギリスのプロテスタントである清教徒にも伝わります。

すると王ｖｓ議会（＝豪商＝清教徒）になります。
ここから権力争い。
王は、対立勢力である議会を弾圧します。
その弾圧を逃れる為に、清教徒が新天地を目指します。
その新天地がアメリカで、その船がメイフラワー号です。
アメリカ建国を遡ると、宗教改革・ルネッサンス・イスラム科学を経て、ギリシャ哲学にまで至るという見事なまでのバタフライエフェクト。

◆

次は、近代です。

【オマケ１】

漫画ヘルシングに、君主論って本が登場します。
これの著者をマキャベリさんといいます。
この本はこのＭ家に対して書かれた物だったりします。
漫画ドリフターズでも、この本が元ネタだと思われるシーンがあります。

この君主論で、ローマ皇帝が紹介されていて、セウェルスといいます。
この皇帝は手紙で二つの軍を倒しているんですが、ドリフターズの信長も劇中で似た事をしています。
ヒラコーさんは君主論が好きっぽい。
そうそう、M家＝メディチ家です。

【オマケ2】
アメリカ大陸に渡ったメイフラワー号の話です。
混乱の元だと思いつつも、書かないとまずいので、書きます。
英のプロテスタントである清教徒には、様々な派閥があったそうです。
メイフラワー号に乗り込んだのは、豪商ではありません。
そりゃ、裕福な生活を捨てて、新天地に行く訳無いです。
乗り込んだのは、そう言う派閥だったって話。
清教徒と一括りになってるから、メンドクサイんですね。

【オマケ3】
ドイツの最後の魔女狩りは、一七七五年だとか。

ついこの間じゃんって思ったヒトは、歴史脳です。
かく言う私もそうで、
西暦一〇〇〇年より前で漸く昔だなーって思います。

【オマケ４】
プロテスタントの誕生で争いが起きました。
フランスやドイツではカトリックｖｓプロテスタントの構図でしたが、英国での争いはプロテスタント同士でした。
王は英国国教会で、議会は清教徒です。

【オマケ５】
この近世編、一回書き直してるんです（目的と手段が入れ替わっていると言いたい。

近代
それなりに昔編そのイチ　思想編

前回のだいぶ昔編をざっくりまとめ＆日本史と比較
コロンブスのアメリカ大陸発見に近い日本史イベントは、勘合貿易（室町時代）です。
メイフラワー号がアメリカ大陸へ入植した頃に、日本では鎖国令（江戸時代）が発令されてます。
まとめると。
ヨーロッパの近世は、日本で言うところの【足利～織田～豊臣～徳川】の頃です。

超ざっくり世界史～それなりに昔編そのイチ～

【思想＋抑圧→ファイヤー】
欧州のヒトは、希に〝ファイヤー〟こんな事をします。
最初はルネッサンスから。

これは、【ギリシャ哲学とキリスト教による抑圧（≒厳しい規律）】が組み合わさった結果でした。

次のファイヤーは宗教改革。

これは、【聖書（思想）＋免罪符（≒重税）】のペアです。

重税の対象は平民だったので、経済的にキツかったそうです。

そりゃ、地獄は怖いですから、裕福では無くても、買わざるを得ない。

この近代でのファイヤーは、フランス革命です。

カードは【啓蒙思想＋苦しい生活】の組み合わせです（啓蒙思想に関しては後述）。

こんな話。

◆

舞台は、何かと創作される近代フランスです。

有名漫画「ベルサイユのばら」や、今や昔のＮＨＫが作った「アニメ三銃士」など、日本でも有名です。

ヨーロッパに鉄砲が登場するのは、中世の一〇〇年戦争の頃ですから、近代である劇中に鉄砲があるのは、当然なのです。

謎は解けた！

ここから本題。

まずは苦しい生活の理由から。

近世の宗教改革を発端にした仏ユグノー戦争（参照：結構むかし編その三）は、仏王アンリ四世がナントの勅令で収拾します。

ナントの勅令ってのは、カトリックでもプロテスタントでも好きな方で良いよって、お達しです。

どうやら、アンリ四世は賢王だった様です。

でも男だ。

暗殺もされます。

良い奴ってのは死んだ奴さ。

ところが、

孫のルイ十四世が、それを廃止ししてプロテスタントを弾圧します。

理由は、この王様が熱心なカトリックだったからだそうです（妾が原因だって噂もあります）。

ルイ十四世と言えば、太陽王とも言われた王様ですが、弾圧はかなりアレだったらしく、勿論プロテスタント達はフランスから逃げ出します。

プロテスタントは商売奨励をしていたので、逃げ出した人たちには、職人・商人が多かったそうです。

その結果、フランスの財政は悪化します。
この十四世は、侵略戦争を始めもします。
領地（＝財源）と言うよりは支配欲って話です。
考えてみれば、
損得勘定できる王様なら、商人（プロテスタント）達を、弾圧したりしませんしね。
・南ネーデルラント継承戦争
・オランダ侵略戦争
・ファルツ戦争
・スペイン継承戦争
・オーストリア継承戦争
・七年戦争
ザックリ言って負けっぱなしです。
戦費が増大し、財政が更に悪化して、増税になります。
飢饉も同時期に起って、平民はヒイヒイです。
◆
ここから思想の話（さっきの奴。
時、大体同じくして啓蒙思想家が登場します。

モンテスキュー・ルソー……聞いた事あるなーレベルです。
ルネッサンスが文芸なら、啓蒙思想は社会（実利）的でした。
勉強すると世界がみえる、だから勇気を持って無知の壁を越えろって事らしいです。
『知る勇気をもて（サペーレ・アウデ）』カント
これが、平民の政治的な目覚めを促す事になります。
【啓蒙思想（政治の関心）】＋【苦しい生活（重税＋飢饉）】のペアです。
これで先のカードが揃います。
ルソー「諸君。啓蒙思想とは、簡単に言うと〝学問のすすめ〟だ」
平民A「フランス語でおk」
平民B「ソンな事より不満を王様にぶつけるべ」
平民C「んだんだ」
ルソー「王様？　なぜ王が出ててくる……あ、こら、待ちたまえ！」
平民ズ「「自分だけ良いもん喰ってんじゃねぇぞ！　ゴラァ！」」
ルソー「お前ら実は理解してないだろ！」
理解されていたかどうかは、皆さん自身で確認してみてください。
私は、啓蒙思想の本を買ってはみましたが、あまりのボリュームで断念しました。
とにかく。

政治に目覚めた平民は議会に押し寄せます（テニスコートの誓い）。
また財政に困っていた王様が、貴族達からも税金を取ろうとしました。
平民と貴族の両方を敵に回してしまいます。
無謀ですねー
その王様とは十四世の孫であるルイ十六世です。
マリー＝アントワネットの旦那さんでもあります。
「パンが無ければケーキを食べれば良いじゃない……ってソンな事いって無いわよ！」
もちろん王様は武力介入、平民は武装蜂起。
このゴタゴタは平民の勝利に終わります。
【フランス革命：一七八九年】
このフランス革命で、フランスは共和国になります。
民主制≒共和制です。
〝≒〟に注意
◆
その後。
フランス以外の王様は、革命が飛び火しては敵わないと、フランスを再び王制にしようと試みます（正統主義）。

王様ズ「「飛び火（とびひ）は自動織機だけで十分だ！」」（英・産業革命）
フランスｖｓフランス以外の構図です（対仏同盟）。
正に四面楚歌。
革命後のフランスを守りたいという平民の声に、立ち上がったのがあのナポレオン＝ボナパルトです。
リアルチートに相応しい連戦連勝で、フランス民は大フィーバーです。
ベートーベン「ナポレオンはサイコウだぜ！」
あのベートーベンも、感激の余り曲を作ってます。
ところが諸般の都合で大激怒、献上は無くなったそうです。
閑話休題。
ナポレオン「胃が痛くて戦どころじゃねぇ……」
惜しいところまで行くのですが、対ロシア戦で大負けした事を契機に、失脚してしまいます。
冬将軍とか、
ワーテルローの戦いとか、
ライプツィヒの戦いとか、
エルバ島流刑からの復活劇とか、

暗殺疑惑とか。
なにかと厨二病をくすぐってくれる御仁でした。
南無。
外国の圧力で、フランスはまた王制に戻ります（ウィーン体制）。
が、また革命が起きます（七月革命）。
更にもう一回起きます（二月革命）。
この騒動がヨーロッパに飛び火して、あちらこちらで革命が起ります。
ある国では成功したり、ある国では鎮圧されたりします。
その結果は現代に至る訳ですが……ここまで前振り。
◆
まとめてる時に、ふと気になったのが、その現代です。
二〇一六年に、英のＥＵ離脱が、英の国民投票で決まりました。
Ｂｒｅｘｉｔ（ブレクジット）って言います。
気になったのは、ＥＵのエライ人たちの怒りようです。
ワイ「近世からカネカネでやってきたんやし、関税に差を付けるだけで良いじゃん？
なんでそこまで非難するん？」
なんて思っていたのですが、【思想＋抑圧】のペアを考えると、あ、察し。

思想とは、反世界経済（アンチグローバリズム）で、
抑圧とは、勝ち組負け組でしょうか。
ＥＵのエライ人たちなら、当然歴史は知ってるでしょうから、「飛び火」を恐れたのだろうって思ったりしてます。
事態の推移を見守りつつ、次回最終回。

◆◆

【オマケ1】
フランスを遡るとフランク王国まで遡るんですが、
カール・シャルル・ルイ、これらの名前は、この頃からあったらしいです。
なら、ゲルマン系の名前かと思っているのですが、詳しいニキお待ちしてます。

【オマケ2】
フランス革命で王様は処刑されます。
ギロチンです。
でもルイ王は１４・１５・１６と紛らわしいです。

そこで、覚え方を考えてみました。
【ルイ十六世→じゅうろく→ロク→ギろくチン】
こう覚えれば、間違いはありません（酷

【オマケ３】
スペインにあるカタロニアと言う州が、独立しようとする騒ぎが起きてます。
２０１７年の事です。
鎮火方向なのですが……

【オマケ４】
英の国民投票は、僅差で離脱派が勝ちました。
ところが、
結果が出た後に、離脱派の主張が実はいい加減だった、って話がボロボロ出てきて「騙された！」と騒ぐヒトがニュースにもなりました。
英国伝統の二枚舌を、自国民に使ったらこうなった、なんて思ってたりもします。

それなりに昔編その２　ＷＷＩ編

近代の世界は、列強とそれ以外の国に、分けられます。
が、列強にも先発・後発の二組が在りました。
今回は、後発であるドイツを主役にして、第一次世界大戦までザックリ行きます。

ザックリ世界史～それなりに昔編その二～

このドイツって単語は、元々地域の名前だそうです。
が、世界史的に見ると、複数の意味を持つので、非常に混乱します。
例えば、
東フランク王国から神聖ローマ帝国の過程に、ドイツ王国というのがあり、
中世以降から統一される近代まで、この地域に存在した諸侯がドイツ諸侯と呼ばれ、
それは神聖ローマ帝国の諸侯でもあったり、
その諸侯の一つであるプロイセンの源流に、ドイツ騎士団なんてのも在ります。
また、

ヒトラーが為政した国もドイツであり、現在の国もドイツです。
ややこしすぎるぜ。

ざっくりシリーズでは、「ドイツ」この三文字のみを使う場合は、地方名・民族名で使う事にします。
混乱を避ける為に、ドイツ地方で興った国を、以下の様にします。
古い順です。

・フランク王国
・東フランク王国
・神聖ローマ帝国
・ドイツ連邦
・ドイツ帝国（ビスマルクの）
・ヴァイマル共和国（ＷＷ１の後）
・ナチスドイツ（ヒトラーの）
・今ドイツ（＝ドイツ連邦共和国・ＷＷ２の後）

今回は、第一次世界大戦の直前であるビルマルクのドイツ帝国までを、扱います。
西ドイツ・東ドイツは現代なので気にしない。

では、ざっくりスタート

◆◆◆

最初に、中世のフランク王国がありました。
それが分裂して、東フランク王国が出来ます。
西フランクの王様「フランク王国は分裂したけどさー　カール大帝からの皇帝位ってどうするの？　権威ほしぃ」
ローマ法王「功績で東フランク王にあげた」
東フランクの王様「いぇーい」
西フランクの王様「ちっくしょぉぉ！」
東フランクのオットーという人が、異民族からの侵略を阻止して（レヒフェルトの戦い）、その功績からローマ皇帝に成ります（オットー一世の戴冠式）
要するに、
ローマ法王が付与するローマ権威は、東フランクに渡ります。
以降、ドイツ関係で帝国云々と名乗るのは、これが発端です。
んで、
オットー一世の戴冠式から、神聖ローマ帝国が始まります。

何所が神聖やねん・何所がローマやねん、このツッコミは敢えて語りますまい。

◆

彼らゲルマン民族は、複数の部族が寄り集まったモノだったそうです。

ですから、政治形態は、その延長である封建制となりました。

が、

西フランクつまりフランスは、近世で絶対王制にすんなり移行しましたが、

東フランクは諸侯の力が強かったので、絶対制への移行が遅れ、近代でも封建制を続けます。

その理由なんですが、

皇帝になるにはローマ法王の権威が必要だった事もあり、その皇帝が留守がちだったから、だそうです。

つまり、鬼の居ぬ間になんとやら、って奴です。

諸侯の力が強すぎて皇帝が決まらない時代もあったんだとか（大空位時代）

これが影響して、近代化が遅れました。

近代化つまり工業化には、莫大な資金が必要となります。

それには、権力と資本が融合する絶対王制（＝中央集権）が、必須だったからだそうです。

後述ですが、ビスマルクが国家統一を行ったのもこれが主因です。

◆

話を戻して神聖ローマ帝国時代です。

帝国は国の集まりなので、ここでは皇帝と諸侯という構成になります。

諸侯は沢山いました。

・バイエルン

・オルデンブルク

・ザクセン＝ヴァイマル＝アイゼナッハ

・エルザス＝ロートリンゲン

・そのほか沢山

多いわ・舌噛むわ。

帝国での一番エライ人つまり皇帝は、各諸侯の中でも有力組が、代わる代わる務めていたそうです。

その有力組を、選帝候と言うそうです。

カッケー

それら諸侯のなかで有名なのがプロイセンです。

ナチスドイツ・今ドイツに繋がるビスマルクが、登場する国です。

このプロイセンをザックリ追います。
因みに。
○プロイセン
×プロセイン
よく間違われるんだそうです。
私も間違えてました。
イが先か・セが先か、カナ順で「イが先」って覚えれば間違いはありません。

◆◆プロイセン前編

【中世】
プロイセンとは、元々地域名だったそうです。
プロイセン地方に住む人たちが、中々キリスト教に改宗しないので、騎士団が派遣されます（北方十字軍）
この騎士団が定住して、騎士団領になります（ドイツ騎士団の東方植民）
んで、
近所のリトニア＆ポーランドと闘って、負けます（タンネンベルクの戦い＝グルン

ヴァルトの戦い）
ドイツ騎士団団長「長いものには巻かれる事にした」
従う変わりに、国にしてもらったそうです。
プロイセン公国が始まります。
ドイツ史を調べるとポーランドって時々聞くんですが、この頃からなんですね。

【近世】
仏王ルイ十四世が、ナントの勅令を廃止します（参照…それなりに昔編そのイチ）
迫害を逃れたプロテスタント達を、プロイセンは受け入れます。
プロイセンの偉いヒト「すべての宗教は等しく、良いものである」
商工者が多かったので、これが今ドイツ＝工業に繋がります。
ユダヤの人も積極的に受け入れたのだとか……歴史の闇を見た気がする。

【近代】
戦争に勝ってプロイセン王国に成ります
神聖ローマ帝国の有力諸侯として存在を続けます。
ここから、ビスマルクのオンステージなのですが、

その前に、切っても切れないオーストリアに行きます。

◆◆オーストリア前編

オーストリアは、プロイセンと同じドイツ民族で、同じ神聖ローマ帝国の諸侯でした。
近代に向けて、何かと関わっていきます。
オーストリア＝ハプスブルク家で、ザックリＯＫです。

【中世】

元々は、フランク王国カール大帝の臣下の領地だったそうです（オストマルク東方辺境伯領）
んで、伯領から公国になります。
幾つか王朝が継いでいたのですが、中世末期に断絶します。
勿論ドイツ地方に居る諸侯は、領有を巡って争います。
ここでハプスブルク家が登場します。
地理的な意味で近くの王様と戦争して（マイヒフェルトの戦い
勝利したハプスブルク家は、その領地を得ます。
徐々に力を付けて、選帝侯では無かったのに、神聖ローマ帝国の皇帝になります。

また、なり続けもします。
ハプスブルク家は、スイスを発祥とする貴族でした（スイスとオーストリアはお隣同士です。
明確な資料は見つけられなかったのですが、政略結婚でドイツ地方にも領地を持ったと思われます。
この家は、政略結婚が好きだったようで、しまくります。
オランダやイタリア、それぞれの一部に領土を持つ程に、します。
この辺りでオーストリア公国↓オーストリア大公国になってます。

【近世】
なので、スペインの王様になってしまいます。
スペイン王国ハプスブルク朝のスタートです
これは、コロンブスを支援したスペイン女王（イザベル一世）の王朝の、次の王朝に当たります。
ここで【オーストリア系】と【スペイン系】に、形上別れます。
が、血縁は大事なので一緒に扱われます。
スペインの領土とオーストリアの領土を足しあわせると、凄く広くなります。

必ず何処かが昼なので「太陽の沈まぬ帝国」とか言われます。
かっけー
ところが、無敵艦隊がイギリスに破れた事を切っ掛けに、スペイン系のハプスブルクは、終わります
十七世紀頃の話です。
スペインは終わりません。
ハプスブルク朝が終わったって意味です。

◆◆オーストリア後編

戻ってオーストリア系ハプスブルクです。
スペインハプスブルクが終わっても、版図は至る所にありました。
当時小国が乱立するイタリアにもあったそうです。
ところが、
皇帝である【神聖ローマ皇帝＆オーストリア大公国のカール六世】が、
跡継ぎを残さず死んでしまったので、
長女が後を継ぎます。

マリア＝テレジアさんと言います。
勿論、神聖ローマ帝国の選帝侯が、異議を唱えます。
ザクセン「女が皇帝？」
バイエルン「ザケンナ！」
Ｔｈｅ　権力争いの勃発です（オーストリア継承戦争）
注意：スペイン継承戦争とは別物です
複雑な利害関係で、部外者も口を挟みます。
仏「国のトップは男がなるべきだ！　だからハプスブルクに敵対する！」
味方もいました。
英「女王様だってイイジャナイ」
結果は、戦争の末に、和解で終わりました。
マリア＝テレジアの旦那さんが、皇帝になります
マリア＝テレジア「でも、実権は私よ！」
旦那「ワシって傀儡（かいらい）？」
マリア＝テレジアさんは、
ルイ十六世に嫁いだマリー＝アントワネットのママさんです。
どういう関係かって話です。

ルイ十四世が同時期に侵略戦争をしました（参照：～それなりに昔編そのイチ～
・南ネーデルランド継承戦争
・スペイン継承戦争（※同じハプスブルクですがオーストリア継承戦争とは別モノ）
・三〇年戦争
これらは、ブルボン朝（ルイ王様ズのこと）ｖｓハプスブルクの構図でもありました。
なので、マリーアントワネットとルイ十六世の結婚は、フランスとオーストリアの和議だったんだとか。
簡単に言えば政略結婚です。
国家であるフランスが気にするなんて、
ハプスブルク家は相当大きかったようです。
にしても。
フィクションでは、敵として書かれる政略結婚ですが、こう言う事を知ると感覚がおかしくなってきそうです。
少なくとも、和平の証ではある訳ですし。
主人公「政略結婚なんて間違ってる！」
お姫様「よよよ」
王様「大局が見えぬ若造が知った様な口を利くな！」

こんなＳＳ書いたらご一報下さい。

◆

神聖ローマ帝国は、リアルチート仏ナポレオンに負けて、崩壊します。
んで、
ドイツ連邦に変わります（ウィーン体制）
ウィーン体制は王制を維持するのが目的でしたので、帝国が終わっても、プロイセンは王国として残ります。
オーストリアは帝国として独立します。
ここで、オーストリアからプロイセンに戻ります

◆◆プロイセン後編

近世どころか近代にもなっているのに、ドイツ地方の国家は、未だ封建制度です。
英・仏「やーい、時代遅れー」
ビスマルク「これって、ヤバくね？」
米「田舎者～」
ビスマルク「イラ」

ウィーン体制で作られたドイツ連邦は、英・仏・米と比較すると、烏合の衆に近いモノだったらしいです。
なので、
これはまずいとプロイセンのビスマルクが、統一国家を作ろうと、いろいろやり始めます。
この時に主導権を巡ってオーストリアと戦争したのが、普墺戦争です。
結果は、プロイセンの勝利。
こうして、ドイツ帝国が出来ます。
ビスマルクは、軍国主義にして、近代化を推し進めます。
もちろん植民地政策も行うのですが、後発組ゆえに、イギリスの植民地政策と、モメる事になります。
それぞれを、３Ｂ政策（独）と３Ｃ政策（英）といいます。
これが、ＷＷ１どころかＷＷ２の原因にもなるのですが、どう見てもヤクザ同士のシマ争い。
ちな、ビスマルクは宰相（＝首相）であって、皇帝ではありません。

◆◆第一次世界大戦の原因

オーストリア「ドイツ帝国に興味なんてないんだからね！」
普墺戦争は、統一後の国が、【イチ民族＝イチ国家】か【他民族国家】かどうか、という選択をする性質を持っていました（小ドイツ主義・大ドイツ主義）
オーストリア帝国は、複数の民族がひしめきあう多民族帝国でしたので、多民族国家でないと困ります。
が、オーストリア帝国はプロイセンに負けます。
イタリア統一戦争でも負けて、イタリア半島の領地も失います。１８５９
んで、権威が低下して、オーストリア帝国内に居る諸民族の影響力が大きくなります。
オーストリア「イタリア半島になんて興味ないわ！」
ハンガリー「しかたないね」
ドイツ民族に継ぐ最大派閥のマジャール人（＝ハンガリー人）と手を組む事にします。
これで、オーストリア＝ハンガリー帝国ができます（アウスグライヒ）
長ったらしいので、オーストリアＨ帝国と省略します。
時代は植民地主義です。
西にはプロイセンがあるので、オーストリアＨ帝国の野望は、東に向かいました。
ですが、ヤバイです。

なにがヤバイって、その東側です。
三つのヤバイがあります。
その１）その東側は、露・英・仏・トルコと言った大国の思惑が交錯し、戦争という意味で火花が散っていました（ナイチンゲールが看護婦という意味で活躍したクリミア戦争も、その一つ）
その２）その東側は、大国に支配されていたので、フランス革命を発端とする独立運動が、飛び火していました。
その３）その東側は、大国に良い様にされてきたという経緯があって、同じ民族が国という枠で分断されていました。
東側の人たち「「不満。かなり不満」」
その地域の名は、「Ｔｈｅ　火薬庫」バルカン半島です。
なのに、オーストリアＨ帝国の偉いヒトは、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合を強行します。
この地域には、東側の人たちであるセルビア人が沢山居ました。
当然、隣国＆同じセルビア人のセルビアの王様は、それがとても気に入りません。
セルビア王「学生よ。言わなくても分るな？」
学生「分りやした。鉄砲玉いって参ります」

セルビア王「くどい様じゃが、ワシの名は出す出ないぞ」
学生「ヘイ」
皇太子「なんだ、君は？」
学生「往生せいやーっ！（バッキューン」
オーストリアH帝国の皇太子が、セルビア人学生に暗殺されます（サライェヴォ事件）
勿論、オーストリアH帝国の偉いヒトは、大激怒。
セルビア王「……（すっとぼけ」
偉いヒト「バレバレじゃ！　ボケェ！」
んで、セルビアに宣戦布告します。
第一次世界大戦　勃発（一九一四～一九一八）
バルカン半島は国レベルで利害が絡む場所でした。
なので多数の国が参加する事になります。
・三国同盟：ドイツ帝国・オーストリア＝ハンガリー帝国・イタリア・ブルガリア（四カ国）
・三国協商：イギリス・フランス・ロシアなど（二七カ国）
結果は、三国同盟の敗北で終わります。
この大戦は、戦艦・潜水艦・戦闘機・戦車などの近代兵器が使われたので、エライ事

になりました。

◆◆◆

このドイツシリーズは、当初オマケ扱いにするつもりでした。
ところが、
調べるととてもオマケで収まりませんでした。
なので、もう一回やります。
次こそ最後

【オマケ１】
今オーストリアと今ドイツは、共に同じ民族です。
ですが、オーストリア人＝ドイツ人と言うのは、タブーなんだとか。
理由は多分ＷＷ２。

【オマケ２】

イタリアも、状況的にはドイツと同じです。
あの半島に小国がひしめいていたので、統一が遅れたんだとか。

【オマケ3】
近代（＝工業）化で英仏に追いつくなんて、ドイツも大概チートですね。

【オマケ4】
ＷＷ１の犠牲者は推定三七〇〇万人だそうです。
当時の世界人口が十六億人ですから、これは二パーセントにもなります。

それなりに昔編その３　植民地編

今年（２０１７年）の漢字は「北」だそうですが、近代の漢字は「植民地」です。
近代で列強として登場した国は、植民地を持っていたと考えて問題ありません。
んで。
その植民地には、幾つかの意味があります。
属領・保護国または保護地・租借地・委任統治・信託統治。
一定の権利を保障される形式もあるのですが、
ざっくりでは、この時代に於ける植民地を、支配・被支配の関係とします。
相当魅力的だったらしく、列強は地球の至る所を片っ端から植民地にしていきます。
イスラム圏である中東を除き、だいたい全部。
その原理が、現代におけるブラック企業の会社と社畜の関係と、同じなら当然か。
近代をフォローするのに避けて通れないので、調べたら、芋づる式に膨大な量になりました。
なので植民地編で一本とします。
正直な話、近代を甘く見てた。

年代は、特に指定の無い限り、近代のＷＷ１直前までの十九世紀です。
では、血と涙の植民地編、ざっくりスタート。

◆◆アフリカ大陸編
アフリカ大陸は大半が植民地でした。
由緒正しいエジプトも、スエズ運河絡みで英の植民地になりました。
殆どが英・仏の植民地です。
列挙するとキリがありませんので割愛します。
アフリカに於ける英・仏の植民地政策を、縦断政策（英）・横断政策（仏）と言います。
世界史ではアフリカ分割とまで言われてます。
英・仏の両国は、戦争までしています（ファショダ事件１８９８
これは英・仏が協調する切っ掛けとなりました（植民地を巡る談合的なイミで
闇が深すぎますな。
英「右半分は私」
仏「左半分は私ね」
ヤンデレも真っ青。
◆

英ネタを一つ（ボーア戦争１８９９～１９０２
アフリカのとある国で、金・ダイヤが産出すると分ったので、英がアレをしました。
この戦争は、軍医として参加していたコナン＝ドイルが熱心に正当化していたんだそうです。
そうか。
コナン＝ドイルとはワトソン博士の事だったのか（そこじゃない
◆
英仏以外。
ドイツ帝国（ビスマルクの）は、タンザニア・ナミビア・カメルーンです。
イタリアは、リビア・エチオピアです。
◆
第二ネタはコンゴです。
ここはベルギーの植民地でした。
手持ちの本には、コンゴの人口が二〇〇〇万から半分に減ったと書かれてます（レオポルド二世の治世）
十九世紀の後半でも、こんな事してたんかい。

◆◆

前々から疑問だっのは、これら植民地政策が、当時の列強の正式な政策だったのか？って事です。

植民地政策で先陣を切ったのはスペイン・ポルトガルでした。

なので、

後に追い越しますが、当時始めたばかりの英仏蘭などは、牽制の為に植民地に関する国際的な取り決めを作りました。

参加国は沢山です。

イギリス・ドイツ・オーストリア＝ハンガリー・ベルギー・デンマーク・スペイン・アメリカ合衆国・フランス・イタリア・オランダ・ポルトガル・ロシア・スウェーデン・オスマン帝国。以上１４カ国。

この会議をベルリン会議（１８８４～１８８５）と言います。

同時期に同名の会議（１８７８）がありますが、領土争いという意味ではどちらも同じです。

つまり。

当時の先進国は、国際的に植民地政策を承認していたって事です。

当時の人を問い詰めても「駄目なの？　なんで？」素で聞き返されそう。

定説には微妙な感じがしますのでソース貼ります。
『早わかり世界史　日本実業出版　第十四版　Ｐ１５０』
Ｗｉｋｉにも在りました。

◆◆オセアニア

オースト「ラ」リアとニュージーランド。
共に英国領です。
オーストラリアは、元々英の流刑地だったそうです。
が、
ルイス　ポンズ　クリークという場所で、金鉱が発見されて、世界中から一攫千金を目指す人たちが、集まりました。
ゴールドラッシュ（一八五一年
中国人（この頃は清）が、多数やってきて、人種問題にまで発展したそうです。
豪の中国人云々は、時々ニュースで見ますが、この頃からなのか。

◆
ミクロネシア

ドイツ帝国（ビスマルクの）領でした。
オーストラリアの北方の赤道付近の諸島です。

◆◆アジア
インド
英国領です。
仏と領有を競っていましたが、英が勝ちました（プラッシーの戦い
内応で勝敗が決まったので、
インドの関ヶ原とも言われるんだそうです。
◆
中国
清はフルボッコにされます。
・アヘン戦争（ｖｓ英
・アロー戦争（ｖｓ英・仏
・日清戦争（ｖｓ日
・義和団事件（ｖｓ英・仏・独・オーストリア・伊・日・米
搾り取られすぎて清は崩壊します。

一時は半分以上占領されてました。
日本で例えると中部地方から西側全部。
香港が中国に返還されたのは、比較的最近で１９９７年です。
中国「おぼえてろアル！　二一世紀には西側に逆襲してやるアル！」

◆◆中南米大陸
スペイン・ポルトガルが、大半の宗主国です。
英・仏・オランダも、少しあります。
アメリカ合衆国建国で大規模に再編されます、が割愛。
この地域は近世で有名ですね（大航海時代的な意味で。
アステカ・インカ・マヤでの、アレと言う意味で。
とは言うものの、文明が破壊されるなんて世界史的にあるあるか（アンティキティラの歯車
アステカ・インカ・マヤ「「世界史的には破壊する方が蛮族なのよ！」」
◆
パナマ共和国
現存するこの国は、もともとコロンビアつまりスペイン領でした。

つまり世界史的に色々あって独立するという経緯を持っています。
が。
パナマ共和国にあるパナマ運河の地域のみは、今でもアメリカ領です。
その植民地の契約期限は、無期限だそうです。
当時のパナマ大統領は、売国奴って言われてるそうです。
まったくもって世界史的な色々があったのでしょう。
パナマ大統領「アメ相手にどうしろと」

◆◆東南アジア
東南アジアです。
ここでかなりの時間を取られました。
「陸と海の境界＝国境」ではないせいか、日本と近い割に取っつきにくい地域です。
どんな国があるのかも曖昧です。
なので。
とにかく一覧。
・ミャンマー（昔ビルマ）
・タイ

・ラオス
・カンボジア
・ベトナム
・東ティモール
・インドネシア
・マレーシア
・フィリピン
・シンガポール

覚えやすい様に語呂合わせにしてみました。

「ミ」ャンマー（昔ビルマ）
「タ」イ
「ラ」オス
「カ」ンボジア
「ベ」トナム
「東ティモール」
「イ」ンドネシア
「マ」レーシア

「フィリピン」
「シンガ」ポール
縦読みして下さい。
ミタラカベ。
東にモドール
イマ
フィリピン
シンガー
意味）出稼ぎに、西へ行ったら壁があったので、東に戻り、今はフィリピンで歌手をしている。
強引ですか。強引ですよね。ごめんなさい。
◆ここから本番
東南アジアの大半はインド文明圏の歴史を持ってます。
そう言われてみれば、
【インドネシアなど東南アジアの文字】と【インドの文字】って形が似てる（まな板の上のウナギ形状
昔の王国が名前もそんな感じです（ヨーロッパで言う中世の頃

・カンボジアのクメール王朝
・マレーシアのシュリーヴィジャヤ王国
・インドネシアのシャイレーンドラ朝
なるほど。おもいっきりインドテイスト
ベトナムのみが中華圏で漢字がベースなんだとか。
へぇへぇへぇ。
あー、それでベトナム戦争は資本ｖｓ共産の構図になったのか。
では東南アジア近代をザックリ行きます。
◆
マレーシア
メンドクサイ事に、今マレーシアが成立したのは、ＷＷ２の後の事です。
近世ではマラッカ王国と呼ばれていました。
順番をザックリ書くと
・シュリーヴィジャヤ王国
・マラッカ王国
・マレーシア
となります。

が、
現代でマラッカというと、複数の意味を持ちます。
それは今マレーシアに存在する港湾都市の名前であり、
その都市が面する海峡の名前でもあります。
どうやら
世界史的に、マラッカとは、地形的つまり交易的な意味でのマラッカ海峡を指すようです。
メンドクサイ。
海峡名じゃやりにくいというので、ざっくりでは「マラッカ」とはマラッカ王国を指す事にします。
このマラッカ王国（＝今マレーシアの昔）は、ポルトガル→オランダ→英の順番で植民地とされました。
◆
シンガポールは、もともとマレー半島にある港湾都市の一つだったそうです。
国力を生かして今は独立国家です。
その歴史は、同じマレー半島にあったマラッカ王国より古いです。
三世紀の中国の文献までさかのぼるんだとか。

三世紀というとローマ帝国まっただ中ですね。
かっては漁業・海賊で随分賑やかな場所だったそうです。
昔タイと昔インドネシアが、取り合いをするほどだったとか。
何というか、東洋版パイレーツオブカリビアン？
ポルトガルの植民地から始まり、オランダに渡り、最終的には英領になります。

◆
タイ
列強の植民地経験が無いんだそうです。
ヘー
◆
インドネシア
オランダ領です。
◆
東ティモール
どうやら明確な王国は無かったようです（無主の地
ポルトガル領で始まります。

が
オランダと取り合って東西に別れました。
その後に
インドネシアにも占領されます。
最終的に
東のみが独立したそうです。
◆
ベトナム
フランス領です普通に侵攻したそうです。
◆
カンボジア
フランス領です。
タイとベトナムの圧力を受けていてフランスに保護を頼んだのだとか。
◆
ラオス
フランス領。元々タイの植民地だったそうです。
フランスに頼んで植民地に。

◆

東南アジアの最後はフィリピンです。
元々はスペインの植民地です。
スペインとアメリカの戦争（米西戦争１８９８）で一回独立します。
米「独立に手を貸すよ」
比「まじで?!」
ところがアメリカの植民地にされたので、また独立しようとします。
比「だまされた！」
米「ＨＡＡＡＡ」
鎮圧されて、また植民地にされます（米比戦争１８９９
フィリピンの対米感情が悪いって話は、どうもこの頃が発端の様です。
アメリカの植民地政策はアレだったって話です。
ちょっと話が飛びます。
当時のフィリピン領総督をアーサー＝マッカーサー＝ジュニアと言います。
この人はＧＨＱのダグラス＝マッカーサーのパパなんだとか。
ＷＷ２でダグラス＝マッカーサーが、フィリピン攻略にこだわったって話は、これが発端なんだろうなーとか思ってます。

◆◆そのほかの地域

・グアム（東南アジアから少し東

・プエルトリコ（カリブ海

フィリピンと同じスペイン領でしたが、米西戦争でアメリカ領になりました。

◆◆◆

つらつらと書いてきましたが、

このような本国〉植民地の関係を、帝国主義と言います。

国名に帝国と付いて無くても、帝国主義な場合も在りますので、注意が必要です。

フランスやアメリカがそれです。

現代に入り大半は独立しています。

が、

現在でも植民地は残っています。

例えば、スペインのジブラルタルとか、キューバのグァンタナモとか、チベットとかです。

気になったら調べてみてね！

続く（大丈夫だ。次こそ終わる。終わる。終わる。おわｒ……

◆◆◆オマケ

アフリカ大陸のガーナ王国

アフリカ大陸は古代ローマから暗黒大陸と呼ばれていて、

地中海近く以外は全く分っていなかったそうです。

なのですが国がありました。

ガーナ王国って言います。

文字を持たない文明だったそうで、よく分っていないんだとか。

ヨーロッパが中世の頃の話です。

へぇへぇへぇ。

それなりに昔編その４　ナチスドイツ編

ＷＷ２です。
終わる終わる詐欺で続いた今までの近代ネタは、全てここに集約されます。
その原因をざっくり言えば、当時の今ドイツであるヴァイマル共和国（ＷＷ１の後）が、経済的に行き詰まったからです。

◆

もちっと詳しく行きます。
ＷＷ１で負けたドイツ帝国（ビスマルクの）は、負けを認めた上で、自主的にヴァイマル共和国（１９１９）になります。
んで、ＷＷ１の戦後処理を目的に、パリ講和会議が開かれました。
フランス「ごめんですむか。ボケ」
その内容は、ざっくりヴァイマル共和国への賠償でした（ヴェルサイユ条約
主にフランスへの。
本やネットを見ると、過酷な報復という表現が使われる程の内容だったそうです。
シュトレーゼマン「だがやらねばならぬ」

ヴァイマル共和国の偉いヒトが、立て直しを図ります。
が。
運の悪い事に、世界恐慌（１９２９）という大不況が起りました。
◆
ニューヨークのウォール街から始まったコレは相当凄かった様です。
アメリカでは、企業倒産・銀行の閉鎖・１／４が失業、とか言われてます。
「暗黒の木曜日」とかけったいな名前が付く程の大不況です。
ピンときませんので、失業率で日本と比較してみます。
定義など細かいところは無視します。
目安ってことで。
日本のワーストが２００２年の５．３６％です。
アメリカの１／４とは２５％ですから、日本が最悪だった頃の約五倍です。
わーお。
界王拳もびっくり。
◆
当時の先進国もとい当時の植民地を持っていた英・仏・米は、世界経済（グローバリズム）を中止してブロック経済を始めます。

要するに、「本国と複数の植民地のみで乗り切ります」計画です。
例えるとアメリカやＥＵが、日本の輸出品に話にならない関税を掛けた、が適当でしょうか。
締め出しとも言う。
当然困ります。
ヴァイマル共和国も困りました。
ＷＷ１で植民地などの経済地域を取り上げられてます。
更にＷＷ１での賠償が上乗せされてます。
ぶっちゃけ、
首が回らなくなります。
米「わりーんだけど、こっちもカツカツだから復興支援打ち切りね」
独「Ｓｃｈｅｉ・ｅ！（シャイセ）」※ドイツの人に実際に使うと危険な言葉第一位。
債権国（＝取り立て側）は、猶予・緩和をしたようですが意味が無かったようです（ドーズ案・ヤング案・ローザンヌ会議）
その結果、ハイパーインフレがヴァイマル共和国を襲います。
ハイパーインフレです。
スーパーじゃないです。

インフレってのは、ざっくりお金の価値が小さくなる事です。
物価が上がるとも言います。
缶コーヒーの値段で例えてみます。
今日は一〇〇円
明日は二〇〇円
明後日は三〇〇円
一ヶ月後には一万円。
こんな感じで高くなります。
もちろん、缶コーヒーのみに非ずで、全ての物価がハネあがります。
当時のドイツの人々「あの。昨日貰った月給じゃ来月まで生活できないんですが、ガガガ」
お金は計画的になんて、できっこありません。
インフレのスピードに実経済が追従できず、銀行なども破綻します。
住む家も失い途方に暮れるドイツの人々。
その時登場するのが、創作でも有名なアドルフ＝ヒトラーです。
ちょび髭オヤジ「Ｆｏｌｌｏｗ　Ｍｅ！」
Ｊ．Ｄ．さん「止めてよ！　イメージ商売なんだから！」

ちょび髭オヤジ「なら、予の辞書に不可能という言葉はない」
N．B．さん「だからやめーや」
圧倒的支持を得たヒトラーは、ドイツ帝国を再興します。
有名な第三帝国です。
公共事業などで経済も立て直します。
ヴェルサイユ条約も無視して、再軍備を行います。
オーストリアを併合してチェコスロバキアから領土をふんだくります（復活の大ドイツ主義
どうやらヒトラーは東欧進出を重視していたようです。
その地域は農作物とか地下資源とか、が豊富だったって話です。
◆
疑問なのが、「当時の英・仏は何しとったんや?」です。
ＷＷ１でのドイツ帝国（ビスマルクの）を踏まえれば、早期に釘を刺すべきです。
その理由はソ連にあります。
当時ロシアがソ連にジョブチェンジしました。
言わずもがな共産主義の大手です。
どうやら

ソ連に対する防波堤にしたかったようです。
【思想＋抑圧＝ファイヤー】の歴史的経緯を考えると無理もないか（参照:それなりに昔編そのイチ）
英・仏「序でにソ連とナチスドイツでつぶし合ってくれんかな」
ちょび髭オヤジ「ドイツ人のドイツ人によるドイツ人の為のドイツ帝国である！」
Ａ．Ｌ．さん「あ〃？（怒」
ナチスドイツはポーランドに侵攻します。
英・仏「「ＷＷ１をこの間やったばかりじゃねーか……」」
英・仏は、渋々宣戦布告します。
ＷＷ２が始まります（１９３９
ナチスドイツ（ヒトラーの）は、オランダ・ベルギー・フランスを負かして快進撃を続けます。
ですが、アメリカの後ろ盾を得たイギリス攻略に失敗します。
ならばとソ連に矛先を向けます。
石油が欲しかったって話です。
が。
スターリングラードの戦いで（１９４２年６月）大負けします。

この戦いは、有史まれに見る悲惨な戦いだったそうです。
これが転換点になりました。
連合軍の反攻が始まります。
降伏したイタリア方面（南）・英のあるノルマンディ方面（北）、この挟撃に耐えきれず、ナチスドイツ（ヒトラーの）は無条件降伏します（ヤルタ協定１９４５年２月
同盟を結んでいた日本も、当然負けます（ポツダム宣言１９４５年８月
その後に冷戦とか色々あって現代に至る。

◆

ヒトラーを暗殺したらＷＷ２は起らないってのは、よくある歴史イフですが、皆様はどう思うでしょうか。
大恐慌による民衆不満が根底にある以上、
【思想＋抑圧＝ファイヤー（それなりに昔編そのイチ）】も前提にある以上、
代理が現れたんじゃないかなと私は思います。
代わりの人が、より優れているか・より劣っているかは、分りませんが。
アンゲラ＝メルケルさん（＝今ドイツ首相）「だーかーらー、いま大変なのよ！」
国民不満と右派の台頭というナチス時代によく似た状況に直面し、選挙に勝って三ケ

月も経つというのに、未だゴタゴタしてるんだとか（ちょっと古い記事です。２０１８年頃だったと思います）

◆

ここでお終いです。

お付き合い頂いた方、ありがとう御座いました。

物足りない事柄・気になった事項は、自分で調べてみてね。

ざっくり東洋編やってみたいけれど、キャパがねぇ。

◆◆◆オマケ

【ナチスドイツにかんする勘違いアレコレ】

１）ナチスって政党の名前なんです。

知ってましたか？

私は随分と知りませんでした。

正式には「国家社会主義ドイツ労働者党」と言うそうです。

ナチスってのは反対派の蔑称なんだとか。

２）フィクションで何かと目にする武装親衛隊とドイツ国防軍は、組織上は別モノな

んです。
しらんかった。
武装親衛隊はヒトラー直属で、
ドイツ国防軍は国の直属です。
ヒトラーが国を動かす以上、外国から見てその違いに意味があるかと言えば微妙ですが。
3）ヴァイマル共和国時代にも軍隊はあって、これをヴァイマル共和国軍と言います。
ドイツ国防軍は、
その延長上にあるという設立経緯から、武装親衛隊ほどにはヒトラーに近くなかった様です。

4）欧州でのナチスネタは前からタブーですが、最近の日本でも駄目っぽい感があります。
あのひと「わがドイツの医学薬学は世界一ィィィ！」
こう言うキャラはもう無理かな。無理だろうな。

オマケ

大日本帝国編。

少なくとも、〝それなりに昔編その3〟からお読みいただくことを、激しく推奨します。

◆◆◆

鉄砲伝来１５４３（参照：結構むかし編その二　大航海時代編

ヨーロッパと日本とが公式に接触した出来事です。

この頃の日本は足利義輝の治世でした。

同時期にこんな事が起ってます。

・コルテスがアステカ征服１５２１

・ピサロがインカ征服１５３３

義輝が知っていたら南蛮貿易どころじゃねーな。

ちな、南蛮人＝ポルトガル人です

あー、あーー（歴史の教科書を思い出した

天正遣欧使節（てんしょうけんおう　しせつ）１５８２
なんと、この頃に日本人がローマ教皇に会いに行っています。
しらんかった。

アヘン戦争１８４０
有名な英と清の戦いです。
驚いたことに、江戸のお殿様はこの情報を得ていたんだとか。
お殿様「清がやられた？　俺らってヤバイ？」
江戸幕府＝鎖国という先入観があるのですが、これは結構いい加減だったらしいです。
お殿様「貿易って重要じゃん」
確かにね（近代編を読み直しながら

◆
◆

ペリー来航１８５３
アメリカが通商を求めてやってきます。
日米親和条約と言います。
これを切っ掛けに、英・仏・露・蘭とも結ぶことになります。
いわゆる不平等通商条約です。
日本は植民地経験が無いとされますが、ザックリ基準だと植民地カテゴリーに入ります。

◆

この開国で有名なのが、井伊直弼です。
この人は安政の大獄で有名です。
開国にあたって独断で不平等条約を結んだとされています。
ここまで前振り。
話半分で聞いて欲しいのですが、これはえん罪だそうです。
実際は、松平忠固という人がやったそうです。
井伊直弼は嫌われ者だったので、やってないのにやった事にされたんだとか。
繰り返しますが、話半分でお願いします。
それでも取り上げたのは、戦国武将の石田三成を思い出したからです。

この人はデキる人で忠臣なのですが嫌われ者で、関ヶ原の戦いでは旧豊臣派が徳川に流れたんだとか。

何が言いたいかというと、井伊直弼えん罪説はアリエル。

◆閑話休題

幕末です。

薩摩・長州「江戸幕府では列強に対抗できぬ！　倒幕だ！」

江戸幕府「内戦が長引けば列強の思うつぼじゃ……」

鳥羽伏見の戦いとか、

無血開城とか、

五稜郭の戦いとか、

色々あって、江戸が終わり明治が始まります。

明治政府は列強に追いつけ追い越せと近代化を進めます（富国強兵・殖産興業

大日本帝国憲法発令１８８９

この辺りから明治が始まります。

伊藤博文が、プロイセン（参照：それなりに昔編その二　独墺編）を参考にして、作りました。
今だから思うことなんですが、これがケチの付き始めじゃなかろうか。
同じ島国で王制なんだから、イギリスにしておけば良かったのに。
博文「当時の英は議会制が進んでおったからのぅ」
だから文民統制が機能しなかったのか。
同時期には、１ｓｔ世界恐慌１８７３・鹿鳴館１８８３・ノルマントン号事件１８８６が起っています。

日清戦争１８９４
当時の日本も植民地主義に倣いました（参照：それなりに昔編その三　植民地編
朝鮮半島を巡って清とモメたそうです。
疑問なのがこの半島です。
この頃の日本史には、～半島ってのがよく登場します。
ワイ「なぜ半島や」
地形から政治を考える学問があります。
これによると、国には大陸系と海洋系があります。

英・日「「俺らは海洋系」」
露・清「「言わずもがな大陸系」」
海洋系と大陸系が互いに関わろうとする時に、足がかりになるのが半島なんだそうです。
専門用語で橋頭堡〈きょうとうほ〉といいます。
ロシアと揉めた（後述）遼東半島もそうですが、昔の日本が半島にこだわったのは、この考え方に基づくんだとか。ちょっと考えてみました。
半島は大陸から出っ張っていて海岸線が多い
つまり、船を接岸させるのに適している
つまり、港が多い
つまり、賑やか
つまり、経済が活発
だからかなぁ。
詳しいニキお待ちしてます。
◆
三国干渉１８９５
まず、日清戦争で日本が勝ちます。

日「勝った」
清「ぐぬぬ！」
朝鮮半島・遼東半島・台湾などを、植民地にします（後述）
この頃から、日本が列強に位置づけらる模様です。
ところが
清の北に位置するロシアは、それがおもしろくありません。
露「日本の行動は極東の平和を脅かすモノである！（南下政策の邪魔）」
日「ぐぬぬ！」
露は、独・仏と結託して遼東半島を返還させます。
これが三国干渉です。

中国分割１８９８（参照：それなりに昔編その三　植民地編
清「助かったアル」
露「代りに（旅順・大連）」
仏「植民地として（広州湾）」
独「土地をもらってくぞ（膠州湾）」
清「だまされたアル！」

米「……」
清「頼むアル！」
米「つ【門戸開放宣言１８９９】」
清「おお、アメリカよ。お前もかアル」
この出来事は、眠れる獅子と恐れられた清が、実は大したことないと思われたからなんだとか。
欧米「「後発の日本に負けたんじゃ、ねぇ」」

◆

日英同盟１９０２
日「ロシア絶許。ぬっころす。でも一国では心細い……せや！」
英「利害の一致ね。ＯＫ．ＯＫ」
当時の英は、【南アフリカ戦争＝ボーア戦争＝ブール戦争】（参照：それなりに昔編その三　植民地編）で疲弊していて、ロシアの台頭を許すよりは日本の方がマシという判断があったそうです。
どうでも良いけれど、当時の英の国際指針だった「栄光ある孤立」ってどう見ても中二病。

日露戦争１９０４
日本は露に、とうとう戦争（ケンカ）をふっかけます。
ロシアの植民地であり軍事的拠点でもあった旅順を攻撃します（旅順攻囲戦
旅順とは黄海の奥にある半島です。
この流れで日本海海戦が起ります（１９０５年５月２７日　―　２８日
バルチック艦隊とか東郷平八郎とかコレ。

ポーツマス条約１９０５・９
米大統領「その辺にしとけや」
米大統領の仲裁で終結します。
日本はロシアが持っていた清の遼東半島・満州鉄道などを得ます。
良く聞く満州ってここからか。
清「人の土地を、また貸ししやがったアル！　けしからんアル！　２１世紀には（ry」
なのですが。
日本が勝てたのはロシアの不手際だそうです（血の日曜日事件
また、当時の日本にとって総力戦であったこれは、かなり負担だったそうです。

米大統領「でも賠償金は諦めろ」
日「連戦連勝って報道してしまっているんですが。騙されたと暴動が起きてるんですが（日比谷焼き討ち事件）」
米大統領「知らんがな」
手持ちの本には、大国ロシアに勝ってしまった為に、調子に乗ったと書いてありました。
ミッドウェーでも二〇世紀末のバブルもそんな感じよね。

◆

ＷＷ壱１９１９（参照：それなりに昔編その二　独墺編
サラエヴォ事件を切っ掛けに第一次世界大戦が起ります。
三国同盟（独・墺・伊）側が負けます。
日本は連合国側として参加していたので、清に持っていたドイツの植民地を得ます。
さらに。
ヴェルサイユ条約１９１９
国際連盟「ドイツ帝国（ビスマルクの）が持ってた南洋諸島をあげるから、ちゃんと管理するのよ」

日「え、マジ？」
嘘の様な本当の話。
『出展：詳説　日本史図録・山川出版社・第六版・ｐ２５４』

ワシントン会議１９２２
アメリカ「最近の日本は、ヤカマシイな（日本人移民排斥運動を見ながら）」
太平洋の秩序維持を名目に、アメリカ主導で行われた取り決めです。
その目的は、出遅れた中華民国の利権を狙ったものだったとか
これには次を含みます。
・海軍軍縮
・ドイツ帝国（ビスマルクの）から得た植民地の返還
・日英同盟の破棄
近代植民地主義を掲げる各国の動きを見る限り、
中華民国の利権が日米開戦の主因、こう考えるのが一番自然かね。
ちな、中華民国とは１９１２で終わった清のあとの国です
清１６１６↓中華民国１９１２↓中華人民共和国（今中国）１９４９
こんな流れです。

◆

２ｎｄ世界恐慌１９２９

ＷＷ２の原因となった大恐慌です（参照：それなりに昔編その四　ナチスドイツ編

状況的にはヴァイマル共和国と同じです。

ブロック経済云々って意味です。

日「無いならば取って見せよう植民地」

この頃から、大陸進出に本腰を入れます。

また同時に、軍部が暴走を始めます【五・一五事件１９３２】・【二・二六事件１９３６】

軍部「文民統制？　なにそれおいしいの？」

つまり中華民国との戦争待ったなし（日中戦争１９３７・７

戦争と呼ぶには条件があって、ドンパチしても戦争と呼ばない場合があるんだとか。

次の満州事変は、日中戦争に繋がりますが、戦争とは言わないらしい。

満州事変１９３１

満州の鉄道が爆破され、日中両軍の軍事衝突に発展します。

これは、満州鉄道の護衛に当たっていた関東軍の陰謀が発端なのだとか。

満州なのに関東とか分かり難いんじゃ。
盧溝橋事件（ろこうきょう　じけん）１９３７
この事件から正式に日中戦争とされるそうです。

ノモンハン１９３９
ソ連ともコトを起してます。
が、日本はボロ負けしたんだとか
ソ「日露戦争は運が悪かっただけだな」
ソ連もカツカツだった説もあります。
ちな、ロシアがソ連になったのは１９２２です

◆
◆

ＷＷⅡ１９３９
ナチスドイツがＷＷ２を起します（参照：終・それなりに昔編その四　ナチスドイツ編
日独伊三国同盟１９４０

日中戦争が泥沼で、後に引けなくなっていた日本は、勢いのあるドイツ帝国と組む事にしたんだそうです。

最近聞いた。

ビットコイン絡みで似た様な話を聞いた。

日ソ中立条約１９４１・４

日「過去は忘れて中立しましょ（アメリカ対策

ソ「ナチスドイツがやっかいだから仕方ない（ドイツが負ければその後は……

真珠湾攻撃１９４１・１２・８

日米で話し合いがされましたが結局開戦と成りました（ハルノート

要するに当時の日本は、アメリカと闘う前に、中国とソ連相手に、既におっぱじめていたって事です。

なんで、いけると思ったし。